

論文

韓国初等学校国語教科書(第7次教育課程・2015年改訂版)  
と教科書掲載昔話

— 伝統文化尊重と現代社会対応としての多様性受容・  
ジェンダーフリーメッセージ —

A Study of Folk Tales, Traditional Culture, Diversity,  
and Gender-Free in Korean Elementary School Korean  
Language Textbooks (the 7th Curriculum, Revised in 2015)

大竹聖美・池好順<sup>1)</sup>

Korean elementary school textbooks (the 7th curriculum, revised in 2015) contain myths and many folk tales. In the case of folk tales, they are published in two ways: the full text or the partial fragments. Furthermore, as “textbook derived traditional folk tales,” combined sales of children’s books and picture books on the market have become popular, and there are many children’s book publishing projects emphasizing “textbook linkage.”

On the other hand, publishers are also very conscious of dealing with modern issues. Messages, such as gender-free and diversity-acceptance are also evident in textbook illustrations.

It has been revealed that the current elementary school textbooks in Korea are actively responding to new social issues in modern times while respecting its traditional culture.

キーワード：韓国児童文学／韓国初等学校／国語教科書／昔話／多様性

1. はじめに

韓国児童文学研究の一環として、韓国初等学校国語教科書(2015年改訂版)の分析を通じた韓国児童文学の性格を考察している。韓国の初等学校国語教科書は、義務教育の国定教科書として種類だけが刊行されており、教科書掲載作品は大きな影響力を持っているためである。掲載作品が国民の読書経験や教養形成に大きな影響を与えるだけでなく、児童図書出版市場への影響も大きい。例えば、〈教科書掲載作品〉

であることを大々的にPRした企画出版物が書店やインターネットの書籍販売サイトで目立っているなどの状況が認められる。

現行の第7次教育課程2015年改訂版初等学校国語教科書を韓国児童文学研究の視点から考察した先行研究に、掲載された文学的作品(散文)の傾向と読書教育について概観した論考<sup>1)</sup>と、外国児童文学翻訳作品の掲載状況を分析した論考<sup>2)</sup>がある。本稿では、教科書掲載昔話について分析しながら現行韓国初等学校国語教科

1) 大韓民国・漢陽大学校BK21FOUR研究員

書の性格について考察したい。

## 2. 教科書に掲載されている昔話

現行の韓国初等学校国語教科書には、昔話のタイトルだけが提示されていたり、登場人物だけが描かれていたり、物語の一部分だけ掲載されていたりするものを含めるとかなり多くの昔話が掲載されている。例えば、日本の昔話に置き換えて分かりやすく述べると、「桃太郎」「かちかち山」「さるかに合戦」などと書かれた書籍のタイトルだけが表示されていたり、猿・雉・犬が黍団子をもらう場面のイラストだけがクローズアップされていたり、柿の種を持った猿とおにぎりを持った蟹がやり取りする会話の部分だけが数行抜粋して掲載されていたり、といった具合である。

このように抜粋された一部分のみが数多く引用されている教科書編集の状況を見ると、すでに国民の基本的な常識や教養として多くの昔話が共有されており、それらは韓国文化として定着しているのだと判断して良いだろう。

たとえば、2020年に刊行された市販の児童書に『初等学生がちゃんと読まなければならない教科書伝来童話』（ソダムジュニア、2020年）



図1 『初等学生がちゃんと読まなければならない教科書伝来童話』ソダムジュニア、2020年

(図1)がある。初等学生とは小学生のことで、伝来童話とは、子ども用に再話された昔話のことである。昔話を意味するイエッイヤギ/エンナルイヤギ(イエッ/エンナルは昔、イヤギは話)という単語も一般的によく使われ、児童書にも使われるが、伝来童話という用語も近代以降一般的に使われてきた。特に童話の概念が移植された1920年代以降、子どもを意識した再話作品や児童書では特に伝来童話と呼ばれてきた。ここでは、教科書に掲載された昔話を12話集めている。

実は、教科書に全文が掲載されている昔話は後述する通り正確には7話だけで、そのうち3話のみが本書に掲載されている。他9話は教科書には一部のみが掲載されているのである。一部のみが掲載されても教科書として問題ではないということは、子どもたちには初等学校入学前に家庭教育や文化としてすでに親しまれていることを意味しているのだろうか。しかし、正確には教科書を読んだだけでは昔話の全体を読んだことにならないので、本書のような「ちゃんと読むべき」と銘打たれた昔話集が出版されているということだろう。出版社による「完全な文章で楽しむ教科書伝来童話」とタイトルがつけられた本書の紹介文は以下のようなものである。

伝来童話を読めば先祖の知恵、親孝行と友愛などを自然に学ぶことができるので、初等学校の教科書に多く載っている。しかし、断片的な内容だけが載っており、内容をきちんと理解するのは容易ではない。『初等学生がちゃんと読まなければならない教科書伝来童話』には教科書に載せられた12編の伝来童話を完全な文で盛り込んで伝来童話をきちんと読み、2倍の感動と面白さを感じることができる。(引用者翻訳) (초등학생이 제대로 읽어야 할 교과서 전래동화 - YES24)<sup>3</sup>

昔話は、教科書では主に1・2年生の教科書

に掲載されているが、学習単元でいうとそれぞれ異なる目的の単元で使用されている。昔話と単元の関係は以下のとおりである。

【1学年・1学期】

1. 虎の兄さん（1-1国語 単元8. 声を出してしっかり読みます）

【1学年・2学期】

2. 豆一粒と子牛（1-2国語 単元4. 正しい姿勢で話してください）
3. 匂いを嗅いだ値段（1-2国語活動 単元5. 適切な声で読んでください）
4. 塩をつくる臼（1-2国語 単元7. 何が重要でしょうか？）

【2学年・1学期】

5. 油売りりと虎（2-1国語 単元6. 順番に話します）
6. 不思議な甕（2-1国語 単元11. 想像の翼を広げます）
7. ウサギとスッポン（2-1国語 単元11. 想像の翼を広げます）

【2学年・2学期】

8. 踊るネズミ（2-2国語活動 単元1. 場面を思い浮かべながら）
9. 義理堅い兄弟（2-2国語 単元3. 言葉の面白さを求めて）
10. 鉄を食べるプルガサリ（2-2国語 単元7. 事の起きた順番を見てください）
11. 牛になった怠け者（2-2国語活動 単元7. 事の起きた順番を見てください）
12. あずきがゆばあさんとトラ（2-2国語 単元11. リアルに表現してください）（引用者翻訳）（초등학생이 제대로 읽어야 할 교과서 전래동화 - YES24）<sup>4</sup>

これらの昔話のうち、教科書に全文が掲載されているのは「塩をつくる臼」、「不思議な甕」、「踊るネズミ」だけである。また、学習目的の異なる単元で別々に昔話を取り扱われていることから、昔話は素材として活用されているので

あって必ずしも伝統的言語文化を学ぶために掲載されているのではないことが分かる。

出版社の宣伝文には「コミュニケーションの力と創造力がぐんぐん！より深く、より詳しく読む教科書伝来童話」として次のような文言もある。

教科書に載せられた要約された伝来童話を読んで、伝来童話を読んだと言えるだろうか。短い話でも始まりと終わりがきちんとした「一編の文」を読んで互いの考えを自由に話し、考えを整理することが重要だ。最初の段階がまさに伝来童話を一編の文で完全に読むことだ。『初等学生がちゃんと読まなければならない教科書伝来童話』は初等学校教師である著者が子どもたちの目線に合わせて簡単に面白く伝来童話を聞かせ、個性あふれる絵と親しみやすいキャラクターも面白さを加えてくれる。また、『初等学生がちゃんと読まなければならない教科書伝来童話』を通じて望ましい読書習慣を作り、互いの考えを分かち合える疎通の力と創意力をおまけに育てることができる。（引用者翻訳）（초등학생이 제대로 읽어야 할 교과서 전래동화 - YES24）<sup>5</sup>

他の宣伝文では、「伝来童話を通じて学ぶ世の中の話」として、「伝来童話は口から口へと伝わる昔話だ。親孝行な虎、恩を返したネズミ、欲張って恥をかいた欲張りじいさんの話などを通じて、面白さと感動だけでなく先祖の知恵を学び、勇気と機知を垣間見ることができる。」<sup>6</sup>とも述べられている。上述したように、韓国の国語教科書において昔話は、決して「伝統的言語文化」などの学習単元で特別に取り上げられているのではなく、素材として、それぞれ学習目的の異なる単元に分散される形で引用されている。しかしながら、学習目的の異なる各単元の中で素材として使用されながらも、こうした関連書籍が強調している出版目的を見る

と、「先祖の知恵と勇気や機知を併せて学べる」という価値を昔話に認めているということと、現在においてもそうした昔話が韓国の児童文化の中で尊重されているという点を認めることができるだろう。

また、同じく2020年に刊行されたもので、同様に教科書掲載昔話であることを強調した絵本セットがある。韓国では、こうした全集販売が現在もおお盛んである。セット販売で高価であるが、教育熱の高い韓国ではこうした教科書掲載作品を集めたものなど、教育効果を謳った全集が家庭用によく売れている。

『リトルクラシックブック 教科書伝来童話セット』（15編）（イェリムダン、2020年）（図2）は、15冊の昔話絵本のほか、「論述ワークブック」3冊と「四字熟語50」の壁絵の付録がついたセット販売となっている。別冊ワークブックと学習壁紙付きで、明らかに教育効果を狙っているが、昔話絵本全集でもある。全集として編集された昔話のタイトルは以下のとおりである。

- 1巻 フンブとノルブ
- 2巻 天女と木こり
- 3巻 金斧銀斧
- 4巻 こぶじいさん
- 5巻 うしになったなまけもの
- 6巻 才人5兄弟
- 7巻 塩をつくる石臼
- 8巻 匂い嗅ぎの値段
- 9巻 赤扇子 青扇子
- 10巻 うさぎの肝
- 11巻 あずきがゆばあさんととら
- 12巻 仲の良い兄弟
- 13巻 コンジパッジ
- 14巻 沈清伝
- 15巻 日と月になった兄妹

（引用者翻訳）(리틀 클래식북 교과서 전래 동화 세트 - YES24)<sup>7</sup>

この15冊セットのなかで実際に全文が教科書に掲載されている昔話は「塩をつくる石臼」だけで、そのほかはすべて文章の一部分、あるいは登場人物のイラストだけが示唆的に描きこ



図2 『リトルクラシックブック 教科書伝来童話セット』（15編）（イェリムダン、2020年）の表紙（리틀 클래식북 교과서 전래 동화 세트 - YES24）

まれていたり、読書案内としてタイトルのみが掲載されたりしているものである。いずれにしても、このような昔話絵本セットなどの形で韓国人として親しんでおいてほしい昔話集は相当数出版されている。ここに挙げられている昔話は韓国の代表的昔話として現代の韓国人によく知られているものと考えてよいだろう。

出版社からの推薦文では、「初等学校の教科書連携に合わせて子どもたちが必ず読まなければならない伝来童話だけを選んで編みました。＜作家が聞かせる童話の話＞を通じて童話の中に隠れている価値観を教え、童話の中の主人公が教える＜私たちの文化の話＞を通じて伝来童話に込められた私たちの文化と先祖の生活風習などを身につけることができ、論述の基礎を固めることができます。」（引用者翻訳）（리틀클래식북 교과서 전래 동화 세트 - YES24）<sup>8</sup>とある。

ここでは、昔話のことを「伝来童話」、あるいは単に「童話」と呼んでいる。韓国では、現在のように創作絵本や児童書出版が活発になる以前の1990年代までは、一般には単に「童話」と言うとき昔話をイメージされることが多かった。そのため、作家のオリジナル作品に関しては「創作童話」あるいは「創作絵本」というようにわざわざ「創作」をつけて区別しなければならない状況があったし、子ども向けの絵の入った昔話の本のことを単に「童話」とされることが多かったのである。そうした名残が感じられる一文である。

これらのことから、韓国においては、子ども向けの読み物、あるいは児童文学・童話の土台として、昔話の存在は現在においても大きいという点を認めることができる。

### 3. 全文が教科書に掲載された昔話・古典説話（全9編）はすべて絵本が底本である

教科書で紹介されている昔話を中心に、市販の児童図書出版において盛んに昔話絵本がセット販売されている様子を見てきた。しかし、こ

れまで見てきた昔話は、タイトルのみ読書案内として掲載されていたり、主人公キャラクターがイラストで掲載されていたり、物語の一部がテキストとして部分的に使用されていたり、断片的な掲載がほとんどだった。

そうした断片的に紹介された昔話を市販の書籍でちゃんと読みましょう、というコンセプトでセット販売されたものだったのだが、ここでは全文が教科書に掲載されているケースを検討したい。

全文掲載された昔話は7編であるが、伝統的言語文化の概念でとらえると古典説話も一緒に検討したいので、2編だけ全文掲載された古典説話も含めて以下のように整理した。

1・2年生の教科書には5本の昔話が全文掲載されているが、「鉄を食べるブルガサリ」は音源としての採用である。現在の韓国の初等学校国語教科書では、文字テキストのほか、音声・動画・映画・漫画など、多様なメディアを活用し、多様なメディアリテラシーを高める教育を行っている。読書単元、演劇単元も今回の教育課程からは導入されており、読解力、論理的思考力のほか、メディアを活用した表現力養成も具体化されているのである。

1・2年生で採用されている昔話の底本は、音源で採用されている「鉄を食べるブルガサリ」以外はすべて2000年以降に出版されたここ20年以内の新しい絵本作品である。

3年生からは古典説話が登場するが、掲載されている2作はいずれも底本は絵本で、絵本作品として優れている点も採用の際に評価されたのではないだろうか。『あかてぬぐいのおくさんと7人のなかま』『不思議なかけじく』は、いずれも韓国で現代絵本の出版が始まって間もない初期の作品であり、両者ともに出版されて20年が経過したロングセラーに該当する作品である。

昔話と古典説話に掲載されるのは4年生までなのだが、音源採用の「鉄を食べるブルガサリ」と、近代の方定煥「うさぎの裁判」以外は

表 2015年版 韓国初等学校国語教科書 掲載 昔話・古典説話 一覧(昔話7編、古典説話2編)

## 【凡例】

- \* 2015年改訂版韓国初等学校国語教科書に掲載されている昔話・古典説話を学年学期ごとに整理した。
- \* 作家名は再話者名である。
- \* 本文がすべて掲載された作品に限る。部分的に掲載(一場面のみ、タイトルのみ、象徴的イラストのみ)された昔話が多いが本表には掲載していない。詳細は本文に譲る。
- \* 参考資料: 방은수 「2015 초등학교 『국어』 교과서에 수록된 서사문학작품 탐색」, 한국아동문학연구센터 『아동문학평론평』 173号, PP. PP. 37 ~ 49, 2019年12月

学年 学期	単 元	タイトル (日本語訳)	タイトル (韓国語)	昔話/ 古典説話	作家 (日本語訳)	作家 (韓国語)	底本 出版 年度	資料形態	教科書	底本 形態
1学年 2学期	7	塩を作る石臼	소금을 만드는 맷돌	昔話	ホン・ユンヒ	홍윤희	2012	テキスト	国語	絵本
2学年 1学期	11	不思議な甕	신기한 독	昔話	ホン・ヨンウ	홍영우	2010	音源	国語	絵本
2学年 2学期	1	ゆらゆらいくよ	훨훨 간다	昔話	クォン・ジョンセン	권정생	2003	テキスト	国語	絵本
2学年 2学期	1	踊るネズミ	춤추는 생쥐	昔話	チョ・ドンホ	조동호	2010	テキスト	国語活動	絵本
2学年 2学期	7	鉄を食べるブルガサリ	쇠불이를 먹는 불가사리	昔話	ユ・ヨンソ	유영소	2009	音源	国語	—
3学年 1学期	8	あかてぬぐいのおくさんと7人のなかま	아씨방 일곱 동무	古典説話	イ・ヨンギョン	이영경	1998	テキスト	国語	絵本
3学年 2学期	9	うさぎの裁判	토끼의 재판	昔話	パン・ジョンファン	방정환	1923	テキスト	国語	昔話
4学年 1学期	2	木陰を買った若者	나무 그늘을 산 총각	昔話	クォン・ギュヒョン	권규현	2014	テキスト	国語	絵本
4学年 1学期	5	不思議なかけじく	신기한 그림 조각	古典説話	イ・ヨンギョン	이영경	2002	テキスト	国語活動	絵本
4学年 2学期	9	イワシ大王のゆめ	멸치 대왕의 꿈	昔話	イ・ジョンギョン	이종균	2015	テキスト	国語	絵本

すべて底本が絵本である点も特徴として注目したい。

全文が掲載されたこれらの昔話・古典作品がすべて絵本を底本としているということは、掲載の理由を絵本としての完成度に見出すことも可能なのではないだろうか。

#### 4. 神話とハンゲル教育

韓国児童文学の土台に昔話が現在も大きな存在感を示していることは、昔話のことを伝来童話、あるいは単に童話とよんできた歴史からも理解できるし、現行国語教科書に多くの昔話が掲載されていることから理解できる。

では、神話はどうだろうか。韓国の神話といえは、「檀君神話」<sup>9</sup>である。

虎と熊が出てくる有名な建国神話で、虎と熊のキャラクターは、1988年のソウルオリンピックマスコットのホドリ(虎)、パラリンピックマスコットのコムドリ(熊)、2018年の平昌オリンピックマスコットのスホラン(虎)・パンダビ(熊)にも採用されているほど韓国文化を象徴するキャラクターである。

オリンピックのマスコットになるほど親しまれている虎と熊のキャラクターが印象的な神話であるが、国語教科書の中では、全文を読ませるといことはなく文法学習の例文として登場



図3 1年生『国語』1学期(下)  
大韓民国教育部、2019年、PP.176～177

している。教科書学習を始めて間もない1年生1学期の「考えを表しましょう」という単元で、「文章を読んで書いてみましょう」という学習目標とともに、「熊が」「ニンニクを」「食べます」という例文として、場面を示す虎と熊のイラストとともに掲載されている(図3)。特に「壇君神話」の説明も出典も書かれていないが、絵を見ただけで韓国の子どもたちには有名な建国神話であることが分かるのだろうか。

「熊がニンニクを食べる」という一節は、100日間洞窟にこもって光を浴びず、ひたすらニンニクとヨモギだけを食べ続けたら人間になれるという、天帝・桓因(ファンイン)の息子桓雄(ファンウン)の言葉を信じ、忍耐強くそれを守った結果、人間となれた熊のエピソードが背景にある(虎は耐えることができず逃げ出してしまう)。忍耐強さによって熊女(ウンニョ)となった熊は、天から降臨した桓雄(ファンウン)と結ばれて朝鮮民族の祖である檀君(タンゲン)を産んだというのが建国神話である。

神話学習とは本来関係のない、1年1学期の基礎的な文法学習の単元で、こうした民族のアイデンティティーにかかわる精神文化にも同時に触れられるように意図的に神話が採用されていると指摘できるだろう。

また、4年生1学期の「誇らしいハングル」という単元では、「ハングルの優秀性を理解し、ハングルを正しく使用してみましょう」という学

習目的で集中的にハングル教育が行われている。

まずは、「ハングルが作られた過程を理解する」という章で、1.「世宗大王がハングルを作った理由を考えながら次の漫画を読んでみましょう」という課題が示され、メディアとしての漫画を読解する学習をさせている。2.「世宗大王の悩みを話しましょう」では、口頭発表についての学習をさせ、3.「ハングルを作った目的と背景を考えながら「訓民正音の誕生」を読みましょう」として、イ・ウンソ「訓民正音の誕生」という散文を読ませる流れになっている。底本は、『世宗大王、世界最高の文字を発明する』(ポムルチャンゴ、2014年)<sup>10</sup>という歴史読み物である(図4)。4.「「訓民正音の誕生」を読み、質問に答えましょう」、5.「世宗大王がハングルを作った理由と過程を検討しましょう」、6.「自身が世宗大王だと考え、民衆に訓民正音を紹介する文章を書いてみましょう」、以上の問いでは、記述式のワークをさせるようになっている。このように、ハングルという固有の文化をテーマにしなが、読む、話す、書く、すべての学習ができるように構成されている。

次に、「ハングルの特性理解」という章がつづき、1.「ハングルの特性を考えながら「ハングルが偉大な理由」という文章を読んでみま

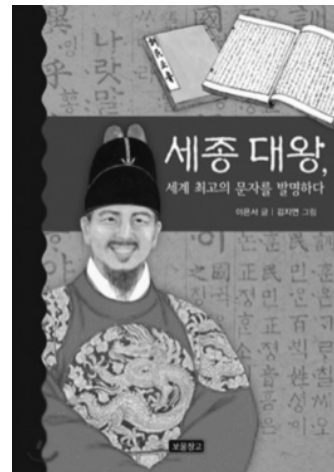


図4 イ・ウンソ『世宗大王、世界最高の文字を発明する』ポムルチャンゴ、2014年



図5 イ・ウンジョン『周時経—ハングルを大きく正しく育てた国語学者』ピリョンソ、2021年

しょう」として、パク・ヨンスンの科学的文章を読ませている。

さらに次の章では、「ハングルを大切にすることを」という学習目的で、1. 「ハングルを愛する心を考えながら『周時経』を読んでみましょう」として、イ・ウンジョン『周時経—ハングルを大きく正しく育てた国語学者』（ピリョンソ、2021年）<sup>11</sup>を読ませている（図5）。この作品は歴史読み物なので、先行研究では、現行の韓国初等学校国語教科書に掲載されている児童文学作品103編の中にカウントしている。<sup>12</sup>

最終章は「文字が必要な理由を知る」である。

1. 「文字がなかった時に、人々は思考をどのように記録したのか考察してみましょう」としてスペインのアルタミラ洞窟壁画の写真やメソポタミア文明の楔形文字の写真を提示しながら写真を読み取る学習をさせ、2. 「世界各国の昔の象形文字を概観しましょう」として、エジプト、シュメール、中国の象形文字を紹介した後、自分だけの象形文字を作らせるワークが続く、意味の伝達について考えさせている。3. 「消えゆく世界の文字を見直そう」を見て、質問に答えましょう」という節では、動画を見せながら世界の消えゆく文字について考えさせている。文字に関するリテラシーのみならず、漫画や動画も活用して多様なメディアリテ

ラシーに対応させた学習内容になっているのである。そして、4. 「文字が必要な理由を話してみましょう」として思考力と表現力を問うている。

最終章は、「ハングルを正しく使用する」で、1. 「学校周辺で見ることのできる看板を眺めてみましょう」、2. 「学校周辺の看板にある文字を分類してみましょう」として、看板の文字を書かせた後に分類させ、「他の国の文字をハングルに変えられる看板があったら変えてみましょう」というワークをさせ、最後に、3. 「どんな文字を看板に書いたら良いか話してみましょう」として、(1) 看板に色々な国の文字を書く理由はなんでしょう？ (2) 他の国の文字で書かれた看板を見たらどんなことを考えますか？ (3) 看板をハングルで書いたらどんな点が良いでしょうか？といった問いを投げかけている。学校周辺の街の中に実際にある看板に書かれた文字を材料に、実社会の様々な問題を具体的に考えさせるたいへん実践的な演習問題といえるのではないだろうか。

### 5. 教科書の中の多様性とジェンダーフリー

最後に、韓国の現行初等学校国語教科書に見られる現代的な課題対応について指摘しておくたい。

高学年の教科書に描かれているイラストの中に、大変今日的な傾向が見られた。それは、図



図6 6年生『国語』1学期(ガ) 大韓民国教育部、2019年、PP.30～31



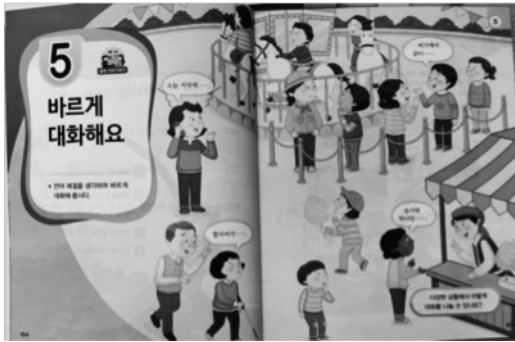


図7 3年生『国語』2学期(ナ)  
大韓民国教育部、2019年、PP.164～165



図8 6年生『国語』2学期(ガ)  
大韓民国教育部、2019年、PP.144～145



図9 6年生『国語』1学期(ナ)  
大韓民国教育部、2019年、PP.180～181

6～9に示したイラストに見られるような、多様性とジェンダーフリーへの対応である。

図6のように、教室で授業を受けている風景には、車椅子の生徒が右ページ中央にはっきりと描かれ、教師の前には黒人の生徒が座っている。

図7は、遊園地で遊んでいる場面であるが、前方中央に白杖をつく生徒が歩いており、その右手には綿菓子を買う黒人の少女がいる。

図8は、「効果的に発表をする」という単元で、舞台上の大型スクリーンの前でプレゼンテーションをしている女子生徒の全身が描かれているが、その足には治療用装具がしっかりとめられている。隠すこともなく随分目立つ状態で描きこまれており注目させられるが、当事者の表情は明るく、ネガティブな印象を与えない。堂々と舞台上上がって全身を見せながら発表している。また、動画に映っているのは料理する友人なのだが、料理に励む様子を紹介される被写体が男子で、主体としてプレゼンする側が女子という構図になっている。

最後に、図9の演劇単元のイラストを見てみると、他の生徒たちの前で脚本を朗読する場面で、発表者として教室の前に立つ生徒の中に、よく見ると義足の生徒がいることが分かる。座っている生徒ではなく、立っている生徒の方にそうした描写をしているところに積極的なメッセージ性を読み取りたくなる。座っている生徒の中には、右ページ前方に見えるように、黒人の生徒もいる。

そして、これらの教科書のイラストに共通しているのは、登場する生徒たちの中に、スカートをはいている生徒や教員が一人もないということである。車椅子や義足、黒人の生徒の登場もそうだが、男女にかかわらず全員がスラックスを履いているというのは、ここに取り上げた図6～9のイラストだけに限った特徴ではない。現行韓国初等学校国語教科書全体を見渡して、高齢のおばあさんの描写と引用された書籍に使われていた一部の挿絵を除いてスカートは描かれていないのである。

このように、障がい、人種、性に関する固定観念や差別をなくし、多様性に開かれた社会を目指すべきであるという方向性が強く意識されたメッセージ性の強い視覚表現といえるだろう。

## 6. おわりに

韓国の初等学校国語教科書(現行の第7次教育課程・2015年改訂版教科書)では、全文が掲載される場合とその一部だけが断片的に使用されている場合もあるが、神話が引用され、昔話も多く掲載されていた。

さらに、「教科書伝来童話」として市販の児童書や絵本のセット販売が盛んにおこなわれ、「教科書関係」が強調された児童書出版企画が多く存在していることが分かった。

また、韓国固有の文字であるハングル教育にも力が入れられており、伝統的言語文化という意味では最も基本的な文字そのものへの教育が徹底的に行われている様子も読み取ることができた。4年生1学期で扱われる単元「誇らしいハングル」は、ハンゲルの優秀性の理解、ハングルが作られた目的・背景の理解、言語としての特徴、ハングルを大切にすることの育成、実社会で使用する上での実践演習まで大変ボリュームのある単元であった。

このように、ハングル教育、神話、昔話といった伝統文化教育は徹底していることが分かった。その一方で、現代的な課題への対応も非常に強く意識されていることも見逃してはならない。他稿<sup>13</sup>で分析したように、掲載されている児童文学作品には現実の社会問題をテーマとした作品が幅広く収録されている。地球温暖化問題、老人の貧困、人種差別、ジェンダー、多文化社会、インターネットの悪質な書き込み問題、障害者、南北分断などである。

ジェンダーフリーや多様性受容へのメッセージは、教科書の中のイラストにも顕著で、スカートを着用した生徒や教師が教室や学校教育の場面で描かれていなかったり、治療用器具を使用している生徒が複数回にわたって目立って描かれていたり、男子生徒が被写体のプレゼンテーションを女子生徒が主体的に行う場面が積極的に描かれている。韓国の現行初等学校国語教科書は、固有文化・伝統文化尊重の軸を失わずに、現代的な新しい社会問題にも積極的に対

応しているのである<sup>14</sup>。

\*本稿は、日本児童文学学会「第61回研究大会」/ラウンドテーブル「東アジアの小学校国語教科書における児童文学を考える—伝統的言語文化に関する教材を中心に—」(2021年11月20日:宮城教育大学)にて口頭発表した内容を基に作成した。

\*科研費研究(20K00522)「東アジア 児童文学史の構築をめざして—出発としての国語教科書掲載作の検証」の研究分担者としての研究成果の一部である。

## 参考文献

### <日本語>

- ・大竹聖美・池好順「現代韓国児童文学の特徴:韓国初等学校国語教科書掲載作品を通して考える」東京純心大学『東京純心大学紀要 現代文化学部』25号、2021年3月、PP.25～39
- ・大竹聖美・池好順「国語教科書掲載作を通して考える韓国における外国児童文学受容の特徴とその変化:2015年改訂版(第7次教育課程)韓国初等学校国語教科書と1995年改訂版(第6次教育課程)韓国国民学校国語教科書を比較して」東京純心大学『東京純心大学紀要 現代文化学部』26号、2022年3月、PP.17～27
- ・キム・セシル文、チェ・スッキ絵、かみやにじ訳『檀君—朝鮮半島の建国神話』少年写真新聞社、2006年

### <韓国語>

- ・이은서 글/김지연 그림『세종 대왕, 세계 최고의 문자를 발명하다』보물창고, 2014
- ・이은정 글/김혜리 그림『주시경 한글을 크고 바르게 키운 국어학자』비룡소, 2021
- ・박신식 글/젤리미오 그림『초등학생이 제대로 읽어야 할 교과서 전래동화』소담주니어, 2020

- ・ 백은영 글/서선미 그림 『리틀 클래식북 교과서 전래 동화 세트』 (전15권, 양장) 예림당, 2020
- ・ 大韓民国教育部『初等学校 国語』教科書、1年～6年、全24冊、2019年刊行（2015年改訂教育課程版）
- ・ 방은수 「2015 초등학교『국어』 교과서에 수록된 서사문학작품 탐색」 아동문학평론, 2019.12
- ・ NCIC 국가교육과정 정보센터 (大韓民国国家教育課程情報センター) : [www.ncic.re.kr](http://www.ncic.re.kr)

<sup>1</sup> 大竹聖美・池好順「現代韓国児童文学の特徴：韓国初等学校国語教科書掲載作品を通して考える」東京純心大学『東京純心大学紀要 現代文化学部』25号、2021年3月、PP.25～39

<sup>2</sup> 大竹聖美・池好順「国語教科書掲載作を通して考える韓国における外国児童文学受容の特徴とその変化：2015年改訂版（第7次教育課程）韓国初等学校国語教科書と1995年改訂版（第6次教育課程）韓国国民学校国語教科書を比較して」東京純心大学『東京純心大学紀要 現代文化学部』26号、2022年3月、PP.17～27

<sup>3</sup> <http://www.yes24.com/Product/Goods/90248943>  
(2022年12月27日閲覧)

<sup>4</sup> 同上

<sup>5</sup> 同上

<sup>6</sup> 同上

<sup>7</sup> <http://www.yes24.com/Product/Goods/90003888>  
(2022年12月27日閲覧)

<sup>8</sup> 同上

<sup>9</sup> 日本語で読めるものとしては、絵本『檀君—朝鮮半島の建国神話』(少年写真新聞社、2006年)が翻訳出版されている。

<sup>10</sup> 이은서 글 / 김지연 그림 『세종 대왕, 세계 최고의 문자를 발명하다』 보물창고, 2014

<sup>11</sup> 이은정 글/김혜리 그림 『주시경 한글을 크고 바르게 키운 국어학자』 비룡소, 2021

<sup>12</sup> 大竹聖美・池好順「現代韓国児童文学の特徴：韓国初等学校国語教科書掲載作品を通して考える」東京純心大学『東京純心大学紀要 現代文化学部』25号、2021年3月、PP.25～39

<sup>13</sup> 同上

<sup>14</sup> さらなる時代の変化としてデジタルトランスフォーメーション、気候と生態系の変化、学齢期の人口減少などを挙げながら、2022年11月に大韓民国教育部はここから更にカリキュラムを変えることを公示した。新しい改訂教科書は2024年から27年にかけて段階的に導入される。2022年12月22日には、教育部（副総理兼教育部長官イ・ジュホ）が「2022年改正小・中学校および特殊教育課程の確定・発表」を発表。＜未来社会が要求する「包容性と創意性を備えた主導的な人」に成長できるよう＞＜学びの楽しさを悟らせる未来教育への転換＞として次のような内容が示された。

- 未来の変化を能動的に準備できるよう力量および基礎素養育成教育を強化  
(すべての教科学習と生涯学習の基盤となる言語・数理・デジタル基礎素養の強化)  
(持続可能な未来のための共同体力量強化および環境・生態教育拡大、デジタル基礎素養強化および情報教育拡大)
- 学生の自己主導性、創意力と人格を育てる個別オーダーメイド型教育の強化  
(学校級転換時期に必要な学習と学校生活適応のための進路連係教育導入)  
(学生オーダーメイド型科目選択権の拡大、学習に対する省察と責任強化など)
- 学校現場の自律的な革新支援および柔軟な教育課程に改善

(学校自律時間で地域関係教育および学校と学生の必要に応じた多様な選択科目開設活性化)

(単位ベースの柔軟な教育課程、進路選択および融合選択科目の再構造化による学生科目の選択権の拡大)

- 生徒の生活と連携した深みのある学習のためのカリキュラムの開発

(単純暗記中心の教育方式から探求と概念基盤の深みのある学習に転換)

(デジタル・人工知能を基盤に学生参加型・主導型授業および学習過程を重視する評価に改善) (引用者翻訳)

(2022 개정 초·중등학교 및 특수교육 교육과정 확정·발표 (moe.go.kr))

<https://www.moe.go.kr/boardCnts/viewRenew.do?boardID=294&boardSeq=93459&lev=0&searchType=null&statusYN=W&page=1&s=moe&m=020402&opType=N>

(2022年12月30日閲覧)